

Community 4 Children



地域は子どものために、子どもは地域のために

Children 4 Community

一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン

2015 年度事業報告書

(2015 年 5 月 1 日～2016 年 5 月 31 日)



連絡先:一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン

〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町 1 丁目 45 番 1-302 号

電話 06-6622-5645 /fax 06-6621-7139

E-mail community_4_children@yahoo.co.jp

はじめに

コミュニティ・4・チルドレン（以下、C4C）は、皆様の暖かいご支援によって2015年度の活動を実施することができましたので、ここにご報告いたします。

2015年度は、タイでは、子どもたちの見守り体制を整えるため、学習意欲を高める取り組み、進路相談会を開く、保護者や村のリーダー層と協力関係を強化するなど、コミュニティでの活動を充実させました。青少年の就労支援基金のための牛銀行プロジェクトも再始動しました。

フィリピンでは、これまでの療育型からコミュニティ・ベースド・リハビリテーションを柱とする地域における自立生活を目指す方向へと発展しています。青年層のしょうがい者を対象とした自立生活支援プログラムを通じて、小規模ですが青年層の小売業開業の支援をすることができました。

宮城県での「地域一体で取り組む福祉・防災学習推進事業」では、県内外での活動を発展・充実すると共に、自主事業として「災害時に要援護者を助ける災害食」普及・啓発プロジェクトと「学びと暮らしへの安心感を高める防災学習」推進プロジェクトに取り組みました。

カンボジア農村では、引き続き幸せな村づくりに取り組んでいる子ども会活動への助成を行いました。また絵本の寄付と読み聞かせを行いました。



2016年度は、タイ、フィリピン、日本、カンボジア、それぞれの取り組みが安定的に持続し、子どもたちの将来につながる成果が得られるよう継続的に支援していきます。また支援団体間の交流や研修も活発化したいと考えています。

今後も、国内外に広く目を向け、新たな支援先の開拓にも力を注いでいきます。



目次*****

はじめに	2
目次	3
2015 年度事業報告書	4
1. NGO 支援事業	4
1-1. 海外支援事業	4
A. タイ国カムクーンカムペーン財団支援事業	4
B. フィリピン国 JPCOM-CARES 支援事業	9
C. 海外プロジェクト助成事業	16
1-2. 国内支援事業「宮城県における地域一体で取り組む福祉・防災学習推進事業」	17
2. 視察・研修・ワークショップなど	26
3. パートナーシップ推進事業	27
4. 情報提供事業	27
5. 組織運営	28

1. NGO 支援事業

1-1. 海外支援事業

2015年度は、タイ国カムクーンカムペン財団とフィリピン国 JPCOM-CARES と連携し、運営・活動を支援しました。またカンボジアの NGO・Khmer Community Development と協働で、ベトナム国境の村プレックチュレイの子ども会活動への支援も継続して行っています。

A. タイ国カムクーンカムペン財団（以下、KK 財団）支援事業

東北地方コンケン県ムアン郡サワティー行政区ノーンタカイ・ノーンメック村小・中学校を中心に、その周辺地域で子どもたちとともに活動し、子どもを見守るコミュニティづくりを支援しています。

1. 奨学金

出稼ぎ、死別、離婚などの理由によって両親と日常的に暮らすことができず、更に生活困窮家庭の中・高校生（専門学校を含む）計 30 人に、これまで年額 6500 バーツ（約 2 万 3 千円）の就学金支援を行ってきました。しかし、小学生の中にも、親や親族の家をたらい回しにされ、自分の居場所がない、制服や文房具などの日用品を買うお金も保護者に求めることが難しく、中学校に入る前に盗みなどの非行に走るといった問題があることがわかりました。そのため、家庭の事情に応じて、小学生にも支援し始めました。また大学に進学したけれど、経済的問題のため学業の継続が困難になっている元奨学生にも同額の奨学金支給を継続しました。

2. 地元文化の継承

子どもたちが急激に変動する社会で生きていくための支援活動として、自分たちのルーツである地元の文化を身に着けアイデンティティを確立していくこと、廃れゆく文化の継承者として地域の発展にも貢献していくことを取り入れています。

(1) 音楽活動

これまでの音楽活動の結果、何人かの子どもたちが伝統音楽の専門学校に行くようになりました。週末には、年少の子どもに、伝統舞踊と楽器の演奏の指導を行っています。

この活動には、毎回、30 人程の子どもたちが参加し、男子は楽器演奏、女性は踊りを学びます。人前で話すことが不得意だった子どもたちも、伝統音楽や舞踊を通じて自信を持つようになり、自己表現、コミュニケーションの面で成長しています。中学生の何人かは伝統芸術の県大会の代表に選出されました。一人が金賞を取り、本人だけでなく周りの大人たちも非常に喜びました。

現在、多くのコミュニティでは、子どもたちの放課後や休日の過ごし方が問題となっています。家庭や学校に居場所がなく、身近な大人たちにも関心を払ってもらえないため、中には小学生までもが、学校を中退した先輩に誘われ、シンナー、覚せい剤、マリファナなどのドラッグや酒に手を出そうとしています。このような非行に走る小学生を音楽活動に誘うと、徐々に表情が豊かになり、自分の居場所を仲間や活動のなかで見出します。音楽の練習をすることで、表現力を高め、エネルギーを発散します。音楽活動と子ども同士の交流は、子どもたちの身の安全にもつながっています。



演奏と踊りの練習日程

練習実施月	実施日数	参加人数(平均)	練習実施月	実施日数	参加人数(平均)
2015年6月	3日間	30	2015年12月	10日間	30
2015年7月	4日間	30	2016年1月	3日間	30
2015年8月	2日間	30	2016年2月	5日間	27
2015年9月	6日間	30	2016年3月	4日間	27
2015年10月	3日間	30	2016年4月	3日間	27
2015年11月	6日間	30	2016年5月	0日間	

(2) コミュニティ文化の継承

◆ 仏日夕方の読経

地元の大人たちに子どもの活動をより深く理解してもらい、子どもたちへの見守り活動を広げるために、雨季（7月半ばから3か月間）は、雨安居と呼ばれる仏事の夕方の読経に子どもたちが参加しました。雨安居は、僧侶が寺院で修行に専念するもので、在家信者も月に4回（満月、半月、新月の日、一昼夜）を寺院で過ごします。

今年度は、ノーンメック村寺院で活動を行いました。コミュニティの中で年配者たちが子どもたちを見守り、お互いを知る機会となりました。

◆ 草木染め

子どもたちが、自然のものを暮らしに利用する方法を学び、工夫し日常生活にいかし、考える実践を続けています。

村の中で採集した樹木、木の葉、果実などを使って、古着などの布を染色しました。今年度は、保護者や村人たちが加わりました。かつて村の誰もが染物をしていましたが、現在は、大人たちも染色をした経験がありません。自分の手で染色をした大人たちは、子どもたち同様、自然の持つ可能性、有用性に感動していました。



実施日	場所	活動	参加者
2015年7月11, 19, 26日, 8月3, 18, 24日, 9月12, 20, 27日, 10月5日	ノーンメック村 村落寺院	雨安居期の寺 での読経参加	ノーンタカイ・ノーンメック村学校の小4から中3までの生徒、約30人
2016年5月13日	ノーンメック村	草木染	子どもたち、保護者、村人約15名

(3) 技術・知識の習得

◆アクティブ英語

簡単な英会話を KK スタッフやボランティアが小学 5 年生から高校 1 年生までの約 15 人の子どもたちに教えるプログラムです。学校では勉強に集中できず、テストを白紙で出す子どもに対して、勇気をもって英語を喋る行為を通じて、勉強に関心を持ってもらおうと考え、3 年前から始めました。



2015 年 3 月（4 日間）、4 月（2 日間）、5 月（1 日間）、6 月（4 日間）、7 月（5 日間）、8 月（3 日間）、週末や平日の夕方に教えました。近い将来、高校や大学受験を考えている子どもは特に熱心に参加してくれるようになりました。

◆進路相談会

子どもたちの現状を把握するため、長期夏季休暇（4～5 月）前の 3 月（11、31 日）には、奨学生、保護者、OB/OG 約 20 人が集まり、KK 財団の活動方針、自分や家族のこと、将来の進路について語り合う場を開いています。

夏季休暇後の集まりでは、休みの間に何をしていたかを話しました。その結果、多くの者は親や親族と一緒に働くなどのバイトをしていたことがわかりました。例えば、親と一緒に建築労働（100～300 バーツ/日）、バンコクのレストラン（300 バーツ/日）、お菓子作りをしている親戚宅に泊まり込みでの手伝い、プロの民謡音楽バンドの音響の手伝い（300 バーツ/日）、サトウキビ畑や野菜の種づくりの手伝い、雑草刈り（300 バーツ/日）、家事手伝いなどです。

労働経験を通じて、お金の重要性を知り、親が重労働をして自分を支えていることを知ったそうです。子どもたちの多くは、自分の将来を考えるようになり、職業訓練や専門学校への進学を望むようになりました。保護者もまた子どもたちの将来への希望を聞くいい機会を持つことができました。KK 財団では、子どもたちを常にケアでき現状を把握するために、このような開かれた進路相談会を継続していきます。

◆視察・研修

他団体の主催行事に参加し、他の地域の青少年と文化交流しました。コンケン市青少年センターや大学の招きに応じて、ステージで伝統音楽を披露するとともに、芸術や農業に接する機会を持ちました。

日時	参加イベント・研修	場所	参加人数
2015 年 8 月 21～23 日	地域を愛する子どもキャンプ	サコンナコン県プア村インペーン・センター	27 人
2016 年 1 月 1 日	コンケン県・市合同主催「国際花博」	コンケン市プントゥンサーン公共地	20 人
4 月 1 日	文化省主催コンケン市映画祭	コンケン大学	20 人

◆精神修行（瞑想修行）

タイでは、仏教の教えが日常生活や人生の指針になっています。瞑想修行は、平常心を養い、様々な困難に立ち向かえる精神性を培うため、幅広い世代のタイ人が取り組みます。

特にコンケン県ウエルワン寺とその関連施設では、若者向けに瞑想修行コースを開催しています。寺院で戒律を守りながら集団生活をすることによって、日頃体験できない規律を学びます。強制はせず、子どもたちの自主性に任せていますが、短期間でも瞑想修行に参加した子どもは、少し大人になって帰ってきました。また瞑想コース経験者の子どもたちが自主的にメンターとして参加しました。寺院からも信頼され期待されています。



期間	場所	参加人数	備考
2015年10月10—28日	コンケン県ウエルワン寺院	10人	見習僧出家
11月8日	コンケン県ウエルワン寺院	30人	カチン儀礼手伝い
3月15—30日	コンケン県ウエルワン寺院	1人	瞑想コース
4月28—30日	コンケン県ウエルワン寺院	7人	瞑想コース
5月15—20日	コンケン県ウエルワン寺院	5人	瞑想コース
3月26—30日	コンケン県ウエルワン寺院	8人	メンターとして参加
4月21—26日	コンケン県ウエルワン寺院	8人	メンターとして参加

3. 自然環境教育・保護事業（森を愛する子どもプロジェクト Dek Hak Khok）

これまで村の公共地で植林活動を行ってきましたが、今年度は、次の段階の事業を考えるため、ノンメック村村人たちとともに森林管理や有機農業に関する研修に参加しました。支援対象地域の中でもノンメック村は、子どもに対する見守り活動の重要性をリーダーたちが理解し、財団の活動にも協力的な村です。タイ国全体で農業従事者が急激に減少する傾向にあるなか、多くの村人も賃金労働に従事していますが、まだ農業を放棄したわけではなく、自分で作ったコメを食べることは生活の基盤となっています。



一日300バーツ（約1000円）の日雇い労働者は、将来必要となる子どもの教育費や医療・福祉費のために貯蓄することもできないのが現状です。身近な自然を利用し、少しでも生活費のコストを抑える生活を営むことが、農村で生き延びるための方法であると考え、コミュニティ森林管理、在来種の保全、自然・有機農法に焦点を絞って視察・研修先を選択しました。その後、コミュニティの子どもたちにどのように農業を伝えていくのかを村人たちと話し合う中で、自分の田畑の端や家の敷地内に苗木や薬草を植える者が出てきました。

3月26日	国王プロジェクト・森林・在来種保全イベント	コンケン大学	20人
5月12日	森林・薬用林学習	KK財団理事レックさんの農場	20人
5月22日	有機・自然農法センター視察	コンケン県ムアン郡タープラ行政区 ノーンウェーン村	25人

4. 保護者とのネットワークづくり（子どもを愛する人のネットワーク）

(1) 親子キャンプ コンケン県カオスワンクワン郡スワンルッカチャート



毎年タイの母の日である8月12日前後に開催しています。奨学生、保護者、OB/OG、KK財団スタッフと教師の総勢60人が参加し、子どもと保護者それぞれが、ゲームやディスカッションを通じ、家族に対する感謝の気持ちを伝え、家族の絆を強めるために交流しました。OB/OGはボランティアとして、キャンプを手伝い、最後に今後もみんなで子どもたちを協力して見守ることを約束し、閉会しました。

(2) 家庭訪問

これまでの日曜日に保護者を集めて話し合うスタイルから、近所に住む数家族に集まってもらい、KK財団スタッフが家庭を訪問するようになりました。時には夕食をともにしながら、子どもの行動などについて保護者と深く話し合いました。月に1度か2度、このような訪問活動をすることで、子どもたちが置かれている家庭環境を把握することができ、子どもと保護者が進路などを一緒に話し合うきっかけづくりにもなりました。この家庭訪問によって、KK財団の活動やその目的を深く理解してもらえるようになり、財団と保護者および地域の人々との関係がよくなりました。

実施日	活動	場所	参加者人数
2015年8月7-9日	親子キャンプ	コンケン県カオスワンクワン郡カオスワンクワン国立公園	70人
2015年6月17日、7月9日、21日、8月31日、10月1日、13日、11月7日、12日、12月3日、7日、2016年1月11日、31日、2月16日、5月10日、25日	子どもを愛する人のネットワーク・家庭訪問	コンケン県ノータカイ村ノーンメック村	20人

5. 牛銀行プロジェクト

2013年6月からノンメック村で開始した牛銀行プロジェクトは、出稼ぎによる若年層流出を止め、コミュニティの担い手を育てるために、牛を育てて得た利益で村の青少年の就労支援基金の設立を目指すものです。昨年度からはC4Cで新たに集めた牛銀行使途指定寄付金1,025,832円を原資とし、新たな牝牛循環型システムとして再開することになりました。雌牛6頭(約4万5千バツ/頭)を牛銀行委員会が購入し、2世帯の家族に各3頭を貸出します。子牛3頭を出産し、離乳期に入ると、2頭は飼育者の牛とし、1頭は牛銀行委員会のもとなる計画です。貸出していた雌牛3頭は次の世帯へと貸出されます。牛銀行に対する認識が村人たちにも浸透し、支援の輪が広がっています。



【成果と課題】

これまで村の内外で広く活動してきましたが、子どもたちの支援はコミュニティの人々の協力なくしては成り立ちません。活動の中心をノンメック村に移し、村人たちとともに子どもへの支援を考えていくことを大切にすることで、効果を実感できたと考えます。

ノンメック村では、村長をはじめ大人たちが協力して青少年を支援したいという意識が高く、放課後や休日に子どもたちが遊べるフットサルコートを村人たちの手で作った実績もあります。また行き場のない子どもたちや年配者の居場所を作る計画も検討されています。

家庭訪問を通じた保護者の参画や意識の向上、親世代を巻き込んだ進路相談会、草木染などの事業推進によって、村ぐるみでの子ども支援活動に発展してきています。今後も村長をはじめとする意識の高い大人たちと協働しながら活動していきます。

B. フィリピン国 JPCOM-CARES(フィリピン国バギオ市、ベンゲット州カバヤン町)支援事業

JPCOM-CARES(ジェイピーコム ケアーズ)は、必要な公共サービスや社会資源の乏しい山岳部バギオ市、ハッピーハロー村(バギオ市内)、カバヤン町の3カ所を拠点に、しょうがいのある子どもや青年層が、地域で自立し尊厳のある暮らしを営める地域づくりに取り組んでいます。

◆2015年度の事業対象者数(人)：2015年6月～2016年5月の期間、下記の人数を対象に事業を行いました。

	継続	新規	計
バギオ市	106	51	157
ハッピーハロー村	17	0	17
カバヤン町	42	0	42
計	165	51	216

1. リハビリテーション&保健プログラム

(1) リハビリテーションセンターでの理学療法、作業療法、教育支援

バギオ市にあるリハビリテーションセンター「STAC5 (Stimulation & Therapeutic Activity Center : スタックファイブ)」(以下STAC5)では、あらゆるしょうがいを持つ子ども・青年を対象に、一人ひとりに必要な理学療法、作業療法および特別支援教育をアセスメントし、必要なサポートを行っています。月～金曜日、8時～17時まで開所し、一人につき1回約60～90分のリハビリテーションを週に2回提供しています。

モンスーン時期の6～8月は、悪天候のため子どもをセンターに連れてくるのが難しい保護者も多く、家庭で療育支援を行ってもらえるよう、保護者への情報提供や技術共有を通じたサポートも行いました。

◆リハビリテーション利用登録者数(人)：

理学療法	作業療法／特別支援教育	計
83	152	235

◆リハビリテーションサービス提供数(回)：

理学療法	作業療法	特別支援教育	計
1029	871	900	2800

(2) 医薬品の支給

健康や体調の維持・向上、および栄養失調状態にある子どもの体重増加のため、1～3ヶ月分のマルチビタミン剤や解熱鎮痛剤、抗生物質等の医薬品の支給を行いました。保護者の健康をサポートするために、保護者も支給対象としています。定期的に子どもたちの体重等をモニタリングし、体調が改善されているかを確認しています。

地域	子ども	保護者	計(人)
バギオ市	35	31	66
ハッピーハロー村	6	0	6
カバヤン町	19	0	19
	60	31	91

(3) 無料の健康診断、歯科検診・治療

10月27日、リハビリテーションセンターSTAC5にて、子どもと家族を対象に、無料の健康診断および歯科検診と治療を行い、子ども23人、家族17人が参加しました。中には、抜歯のためのレントゲン撮影が必要な子どもや、前歯がなく発音が難しく義歯をすすめられた子どももあり、後日、同歯科医のもとで受診・治療できるようにコーディネートを行いました。



(4) 医療サービスや医療機関の紹介・照会

新規利用者や療育支援をおこなっていく中で専門医による受診の必要性が出てきた子ども 20 人を、地域パートナーである小児科医、内科医、神経科医、歯科医、医療機関に紹介しました。時には、保護者が医師の指示や診断内容を十分に理解できていないこともあるため、ソーシャルワーカーが同行しました。受診後は、リハビリテーションの支援計画に反映するとともに、医師の指示通り適切なケアを行っているかどうかを保護者に確認しサポートしました。

	人数	紹介・受診内容
7月	1	抜歯のため歯科受診し、正しい口腔ケアの方法について医師より指導を受けました。
8月	7	リハビリテーションスタッフのアセスメントにより、栄養失調状態にあると判断した子どもたちを小児科医に紹介しました。マルチビタミン剤の服用と栄養状態が子どもの発育にどのように影響するかについての指導がありました。
9月	2	体の状態を確認するためレントゲン撮影を行い、リハビリテーションの継続が有効であるとの診断を受けました。
10月	5	子どもたちに必要なケアを確認し、支援計画に反映するため受診しました。何名かの保護者は、受診の重要性や医師の言葉を十分に理解することが難しいため、スタッフが医師と保護者の間に入り、診断内容の記録を説明しました。
11月	1	子どもたちに必要なケアを確認し、療育計画に反映するため受診につなぎました。
1月	1	X線検査および超音波診断を行う必要がある子どもをバギオ市の診療所に紹介しました。骨の乖離や癒着が確認でき、今後のリハビリテーションの療育内容を改善することができました。
2月	2	JPCOM-CARES が行っている無料の健康診断で内科医の診察を受けた子どもを専門の小児科医に紹介しました。脳性小児麻痺とけいれん性の麻痺があることがわかり、リハビリテーションの継続と発作を抑制する薬を服用するよう指示がありました。
3月	1	脳性小児麻痺との診断がされ、リハビリテーションの継続と発作を抑制する薬を服用するよう指示がありました。

(5) 医療費等の一部支援

STAC5での療育支援を開始する際には、診断書を元に個別支援計画を作成します。子どもたちのしょうがい把握やその特性を理解するためには、専門医による診断が重要です。しかし、専門医による初回診察料は 2,000～2,200 ペソと非常に高く、経済的理由により必要な診察を受けられない子どももいます。また、急に体調を崩した際にも、経済的な理由により適切・必要な医療サービスを受けられない子どももいます。そのため、小児科医や専門医による診断、レントゲン検査、医薬品等にかかる費用の一部、1人につき、JPCOM-CARES より 1,000 ペソ、保護者会の緊急基金から 500 ペソを支援しました

バギオ市	ハッピーハロー村	カバヤン町	計(人)
27	0	0	27

2. 教育支援

(1) 奨学金

今年度の奨学生は、バギオ市：8名、カバヤン町：28名の計36名です。1学期の前半(6～8月)中に、奨学生候補者の家庭や学校訪問を行い、学習状況をヒアリングし奨学生を選別しました。

(2) 学用品の支給

バギオ市 20 人、カバヤン町 30 人の就学中の子どもたちに学用品の支給を行いました。

3. 自立生活プログラム

(1) プログラムの実施

青年へと成長している子どもたちが、将来、地域の中で、自分で、または家族や地域の方々とともに自立した生活ができるように、2012 年 10 月より「自立生活プログラム」を開始しました。これまで、芸術・音楽活動、家事技術、調理技術、身だしなみ・マナー、手工芸技術、裁縫・ミシン技術の習得に取り組んできました。参加者のほとんどが就学中の 10 代の子どもたちが多いため、今年度も、これまで積み重ねてきた家事技術、調理技術、手工芸技術の反復訓練を繰り返しながら、発達段階に合わせた新規プログラムも加えてきました。

カバヤン町では、夏期休暇期間を利用し、参加者とスタッフが一週間共同生活を行い、プログラムを実施しました。食事の用意や後片付け、共有スペースの掃除や手工芸品の制作等を各チームで取り組み、他者とコミュニケーションをとりながら協力して活動するスキルの習得にも力を入れました。

ハッピーハロー村では、村議会と連携し、村の多目的ホールでプログラムを実施しました。また、バギオ市のメインセンター STAC5 にて、2泊3日の宿泊型プログラムを実施しました。最終日には、保護者や村議会メンバーを招待し、宿泊訓練の成果を共有することができました。全体的に参加者の社会性が育ってきています。村会議長からは、今後も IL プログラムを継続して支援するとともに、保護者や家族との連携強化をはかっていくとのメッセージをいただき、地域に根ざしたプログラムへと発展していくことが期待できます。

地域	参加人数	実施回数	プログラム内容
バギオ市	13	29 回	対人関係スキル / コミュニケーションスキル / マナー / 衛生・身だしなみ / 口腔ケア / 家事技術 / 調理技術
カバヤン町	15 (新規 4 名)	7泊8日を 2 回	／ お金の管理 / 医薬品の管理 / 応急手当の方法 / 交通機関の利用方法 / 鍋敷きづくり / 足拭きマットづくり / アクセサリーづくり / クリスマスデコレーションづくり / コインケースづくり
ハッピーハロー村	7	46 回	



(2) モニタリング（家庭訪問）

カバヤン町では、休み期間中に親元を離れて合宿形式でプログラムを実施しているため、保護者に対するプログラム内容の情報共有と、子どもたちが習得した生活スキルを各家庭で活かしているか、その実践状況のヒアリングを目的に家庭訪問を行いました。保護者が子どもの側で一つひとつ手順を確認しながらサポートしている家庭がある一方で、子どもがどういったところでサポートが必要かを十分に把握できていない家庭もありました。スタッフと保護者が子どもについての情報を共有し、観察やサポートのポイントについてアドバイスをを行いました。

(3) 候補者のアセスメント

9～11月、カバヤン町にて、今後のILプログラムの参加候補者である子ども7名のアセスメントを行いました。保護者との面談を通して、ほとんどの子どもたちが家庭での手伝いをほとんどしていないこと、生活スキルや家事の仕方を家族から学ぶ機会がないことを把握しました。今後の支援内容を計画していくためにも、家庭での様子をモニタリングしてもらうように協力をお願いしました。

(4) 起業支援

昨年より、自分のやってみたいことや起業アイデアを持つ青年に対して起業支援を開始しました。ハッピーハロー村の雑貨店でアイスクャンディ販売を始めたJobertさんは、今年度も販売を継続するとともに、ILプログラムで習得した手工芸品を熱心に制作し、地元の雑貨店や村の行事で販売を始めました。Jobertさん以外にも、手工芸品の制作と販売を開始したメンバーが数名出てきています。

4. 保護者のエンパワメント

(1) 保護者会の運営支援

バギオ市では、保護者の副収入と保護者会の運営資金の獲得のため、保護者たちが集まりお菓子の製造と販売を行いました。子どものリハビリテーションの時間に合わせて、午前・午後に分かれてポルボロンやパステリヤスなどの伝統的なお菓子を6日間で583パック作り、センターにて1パック6ペソで販売しました。



(2) 生計向上プロジェクト：養豚プロジェクト（カバヤン町）

カバヤン町では、小規模養豚を通じた副収入による家庭の経済的な安定を目指し養豚プロジェクトを行っています。養豚を希望する家庭に対し、JPCOM-CARESの養豚場で生まれた仔豚を1家庭につき3頭ずつ貸出し、市場で売れる豚になるまで（約5か月間）各家庭で飼育してもらいます。豚の成育状況にもよりますが、実質収入は、カバヤン町の一般的な家庭の2か月分の収入に相当します。2015年度は、17家族に仔豚を貸し出すことができ、豚を売った収入で子どもたちの教育費や食費に充てることができました。

5. 権利擁護・コミュニティ啓発活動

アドボカシー活動として、以下の行事を実施しました。

	行事名	場所	参加者数	内容
7月27～29日	身体しょうがい児セミナー	STAC5 (バギオ市)	26人	保護者やスタッフが、しょうがいに対する知識と理解を持ち、早期発見、正しいケアやサポートの方法を学ぶことを目的に、デモンストレーションなども含めた実践的な研修を行いました。
8月19～20日	しょうがいや行動特性への対処方法を学ぶセミナー	STAC5 (バギオ市)	38人	学習障害、ダウン症、自閉症等、それぞれのしょうがいと特性の違いを理解することを目的に行いました。悩みを抱えている保護者も多く、センターでの対応方法の共有などを行いました。
1月26日	自閉症啓発月間	STAC5 (バギオ市)	45人	自閉症の子どもについての理解を深めることを目的に、保護者間で情報共有を行いました。
2月17日	ダウン症&知的しょうがい啓発月間	カルゴン山 (バギオ市)	40人	子どもたちの社会性や関係者同士のネットワークの構築、コミュニティサービスを通じた地域への働きかけを目的に、植樹活動を行いました。
4月2日	村のお祭り	ハッピーハロー村	7人	ILプログラムに参加する7名がパレード等に参加しました。コミュニティの一員であること、またILプログラムについて地域住民に認知してもらうことを目的に参加しました。 翌年は、制作した手工芸品の販売も予定しています。
4月8日	エコウォーク	公園 (バギオ市)	6人	ハッピーハロー村のILプログラム参加者の社会性やコミュニティへの貢献、参加メンバー間の関係性を育むことを目的に実施しました。

6. ネットワークづくり・社会資源の活用

(1) 地域行事・集い

地域パートナーや各関係者・機関とのネットワークの構築のため、下記の行事を実施しました。

	行事名	場所	参加者数	内容
7月23日	第37回しょうがい 予防&リハビリテ ーション月間	教会 (バギオ市)	109人	新たな地域パートナーとなる教会と共同で実施し、会場や昼食の無償提供の協力を得ました。子どもたちや保護者、関係者間の積極的な交流が生まれました。
9月7日	昼食会	STAC5 (バギオ市)	48人	地元ラジオ局の方々の申し出により、療育支援を受ける子どもや保護者との昼食会を行いました。
11月11日	STAC5 18周年記念	教会 (バギオ市)	156人	STAC5 が設立されて 18 周年記念行事を行い、日頃より協力してくださっている多数の地域パートナーも集い、ネットワークの強化を図りました。
12月13日	クリスマス会	小学校 (バギオ市)	68人	地域パートナーによるクリスマス会が企画され、プレゼントの寄付や子どもたち向けのプログラムを実施していただきました。
12月16日	年末&クリスマスの集い	教会 (バギオ市)	216人	「クリスマス：愛と分かち合いの季節」とテーマを掲げ、クリスマスを祝いました。保護者会メンバー60人が中心となり、スタッフや社会福祉士を目指す学生とともに、47,750ペソの寄付金を募ることができました。
12月28日	クリスマス会	教会 (バギオ市)	72人	地域パートナーの教会関係者によるクリスマス会が企画され、子どもたちにプレゼントの寄付をいただきました。
4月18日	食事会 (給食の提供)	STAC5 (バギオ市)	33人	子どもたちに栄養のある食事を提供することを目的に、セントルイス大学の学生ボランティア団体が、昼食会を実施しました。学生たちは、子どもたちとの交流を通して、しょうがいへの理解や子どもたちの基本的な人権に気づきを得た様子でした。

(2) 他組織・個人からの寄付金や物資支援とそのコーディネート

今年度も様々な個人や団体から、リハビリテーションセンターで利用できる教材、医薬品等、約 20 件の備品提供や寄付金をいただきました。古着の寄付が多く、状態の良い古着は必要としている家庭に提供し、他は IL プログラムでの古着を再利用した商品づくりに活用しました。

【成果と課題】

今年度は、昨年度以上に、新たな地域パートナーとなる個人や団体からの協力を得られました。特に、ハッピーハロー村では、村議会メンバーを自立生活プログラムに招き、その成果を共有できたことで、村議長より支援の継続と連携強化の約束が得られました。地域パートナーが主体となった子どもたちへの支援プログラムも複数コーディネートしました。また、保護者会が中心となってファンドレイジングも行い、ネットワークの強化と広がりを生むことができました。

つながりや社会資源を十分に活用し、子どもたちや保護者のニーズを丁寧にコーディネートしました。積極的に地域に出向き、保護者・学校（先生）・関係機関と子どもたちの情報を相互に共有することができ、その後のサポートに活かすことができました。

自立生活プログラムでは、参加メンバーの社会性やコミュニケーションスキルが一層育ってきています。プログラムで習得した技術を活かして、自主的に商品の制作と販売を行いはじめた青年も出てきました。お惣菜の販売で生計を立てたいと少しずつ将来の展望を描き始めたり、習得しているマッサージ技術をさらに高めていきたいという思いを持ったメンバーもいます。一方で、商品販売におけるマーケティングの課題が上がっています。この点については、保護者会が取り組む生計向上プログラムにおいても同様の状況があり、安定した収入へとつながっていくような販売方法や商品・技術開発が必要となっています。

C. 海外プロジェクト助成事業

2013 年度よりカンボジアの NGO である Khmer Community Development (以下、KCD) が活動するベトナム国境の村プレックチュレイの子ども会活動を支援しています。近年、安価な労働力を求める海外からの投資によって、産業も発展してきたカンボジアですが、劣悪な労働環境、自然破壊、土地問題などの様々な問題を抱えています。子どもにとって一番大きな問題は、やはり教育です。2 年前にプレックチュレイから初めて大学に進学する者がでました。しかし、まだ就学年齢になっても小学校に登録されていない子どもが 35 人もいます。カンボジアの児童労働は、近隣諸国の底辺産業を支えるため搾取され、読み書きもできない子どもが海外に売り飛ばされる例が国際問題にもなっています。



子ども会の一番重要な活動は、「小さな先生による青空教室」です。地区の小・中学校は人員不足、教育の質や意識の低さ、教育設備・道具の不足などの問題を抱えています。そのため子ども会の年長の子どもが年少の子どもに木陰や人の家で初歩的なカンボジア語、英語、算数を教えています。小さな先生は家庭訪問を繰り返し、保護者や子どもに学ぶことの重要性を説明し、未就学の子どもを学校に誘います。教師と子ども・保護者とのお互いの不信感を改善するため、それ

ぞれの意見を聞いて、関係を改善し、就学率を上げようと、子ども会のメンバーは解決策を考え、地道に活動を続けています。

プレックチュレイの村には、ベトナム人が多く住んでいますが、カンボジア人との間の摩擦は増えこそすれ減るようには思えません。お互いの感情の齟齬が子どもたちの心にも影響を与えています。子ども会の活動は、ベトナム人とカンボジア人の交流にも役立っています。

また2015年9月に、C4C理事がカンボジアを訪問し、カンボジア語に訳した日本の絵本をプレックチュレイのコミュニティ図書館に寄贈しました。絵本はタイへ古本を寄付する活動を続ける、大阪府箕面市の主婦グループ・サワディプロジェクトが寄付してくださり、カンボジア人留学生が翻訳を担当してくれました。同行した大学生の一人が、カンボジア語で絵本の読み聞かせをし、約40人の子どもがお話を楽しみました。

カンボジアは、まだまだ最低限の子どもの権利が守られていない国の一つです。今後も、子ども会の自主的な活動を刺激し支える仕掛けをC4Cも検討していきます。

1-2. 国内支援事業「宮城県における地域一体で取り組む福祉・防災学習推進事業」

『東日本大震災で甚大な被害を被った宮城県において、各地域全体の福祉力・防災力を高めるとともに、普段から、住民一人ひとりの命と暮らしを守ることを目指す。』

このことを実現するために、C4Cは2015年度、宮城県内で取り組まれる児童・学生・青年層が主体的に参画する福祉・防災学習の実施について、10歳の子どもの成人する期間をイメージして、10年スパンの学習ビジョンを持ちながら、福祉・防災学習を実施・検討・計画されている地元の社会福祉協議会、NPO、学校等とご相談しながら、次のようなことに取り組みました。

1、福祉・防災学習プログラム・ツールの研究開発・実施 および企画・実施への協力

自主事業として、「災害時に要援護者を助ける災害食」普及・啓発プロジェクト、「学びと暮らしへの安心感を高める防災学習」推進プロジェクトを実施したほか、福祉・防災学習のプログラムやツールの研究開発を行い、県内各地における事業の企画・実施をサポートしました。

①自主事業：「災害時に要援護者を助ける災害食」普及・啓発プロジェクト

※真如苑 市民防災・減災活動 公募助成事業

2015年度は、乳幼児・食物アレルギーのある子ども・高齢者といった「食に関する災害時要援護者」への理解をうながすこと、子どもの平時からの食育に取り組むこと、大人も子どもとともに学ぶことを目標に、下記事業に取り組みました。

2015/7/27「夏ボランティア体験学習」

主催：柴田町社会福祉協議会

協力：コミュニティ・4・チルドレン、柴田町食生活改善推進員、町内ボランティア

会場：柴田町地域福祉センター

参加者：24人（町内の小学1～2年生）

内容：防災食育ゲームを通じた災害食メニューの考案と調理・試食



2015/7/30-31 Jボラ体験隊「みんな de 防災クエスト」

主催：登米市社会福祉協議会

協力：コミュニティ・4・チルドレン、イオンスーパーセンター佐沼店

会場：迫老人福祉センター、イオンスーパーセンター佐沼店

参加者：延べ32人（市内の中学生・高校生）

内容：防災食育ゲームを通じた災害食メニューの考案と調理・試食、ポリ袋クッキングの調理・試食

2015/8/5「夏ボランティア体験学習」

主催：柴田町社会福祉協議会

協力：コミュニティ・4・チルドレン、宮城学院女子大学 学生サークルFAS

会場：柴田町地域福祉センター

参加者：34人（町内の小学3～6年生）

内容：防災食育ゲームを通じた災害食メニューの考案と調理・試食

2015/10/10「みどり台町内会 災害時炊き出し訓練」

主催：みどり台防災組織

協力：コミュニティ・4・チルドレン、名取市社会福祉協議会

会場：みどり台集会所駐車場

参加者：50人（町内会の親子、子ども）

内容：非常食の展示と、非常食アレンジメニューの調理体験・試食



2015/10/27「石巻市立雄勝小学校 防災学習」

主催・会場：石巻市立雄勝小学校

講師：コミュニティ・4・チルドレン、石巻市社会福祉協議会

参加者：19人（全校生徒）

内容：アルファ米の調理、ポリ袋クッキングによるカレーやシチューの調理、防災体験

2015/10/28「角田の『め』で防災クッキング！」

主催：コミュニティ・4・チルドレン

共催：角田市社会福祉協議会

会場：北郷児童センター

参加者：30人（児童クラブ利用者）

内容：角田の「め」（梅・豆・米）をつかった災害食や、非常食のアレンジメニューなどの調理、防災講話

2015/11/6-7「士別市中学生・高校生ワークキャンプ」

主催：士別市社会福祉協議会、士別市ボランティアセンター運営委員会（北海道）

協力：コミュニティ・4・チルドレン、一般社団法人 Wellbe Design

会場：つくも青少年の家、士別市民文化センター

参加者：5人（市内の高校生）

内容：防災食育ゲームを通じた災害食メニューの考案と調理・試食



2015/12/25「冬休み福祉体験学習」

主催：川崎町社会福祉協議会

講師：コミュニティ・4・チルドレン

会場：川崎町健康福祉センター

参加者：27人（町内の小学生）

内容：ポリ袋クッキングによるカレーなどの調理、非常食の調理

2016/1/24 福祉・防災学習カフェ in おおさか「いばらきの災害・防災について、わたしたちにできること」

主催：コミュニティ・4・チルドレン

協力：IVUSA大阪茨木クラブ、宮城学院女子大学学生サークルFAS、東北学院大学災害ボランティアステーション、復興大学災害ボランティアステーション

会場：立命館大学大阪いばらきキャンパス

参加者：17人（IVUSA大阪茨木クラブ、関西の社会福祉協議会職員など）

内容：宮城学院女子大学学生サークルFASと東北学院大学災害ボランティアステーションの学生による活動報告、参加者どうしのディスカッション

2016/2/26「災害ボランティアセンター研修会」

主催：角田市社会福祉協議会・かくだボランティアセンター

協力：コミュニティ・4・チルドレン

会場：角田市総合保健福祉センター

参加者：80人（市内の自治会役員、民生委員など）

内容：宮城学院女子大学学生サークルFASが考案した「梅入りだまこ汁」の試食、本プロジェクトの紹介

2016/5/19「柴田町食生活改善推進員総会における研修」

講師：コミュニティ・4・チルドレン

会場：柴田町保健センター

参加者：30人（柴田町食生活改善推進員）

内容：防災食育ゲームを通じた災害食メニューの考案、非常食の紹介

②自主事業：「学びと暮らしへの安心感を高める防災学習」推進プロジェクト

※地福寺出開帳 両国回向院 復幸支縁基金事業

宮城県内で防災学習を推進していくにあたり、特に沿岸部の学校や地域団体においては、「防災」と聞くと震災を思い出し恐怖感を抱いてしまう子どもたちがいるのではないかと、子どもたちにも安心して防災活動に取り組んでもらえるためにはどのように学習を進めていくといいか、といった声がきかれ、防災学習のプロセスにメンタルヘルスケアの視点を取り入れていくことも必要不可欠となっています。

学習者も実践者も安心して防災学習に取り組み、この宮城で



安心して暮らしていくことのできるよう、メンタルヘルスケアの視点を取り入れた防災学習プログラムの企画・実施方法を考えるワーキンググループを立ち上げ、研究成果を冊子「実践者の声から～防災学習のお悩み」にまとめ、500部印刷しました。

ワーキンググループメンバー（順不同・敬称略・2015年12月現在）

- 千川原 公彦（ウェザーハート災害福祉事務所 代表）
 相澤 治（NPO法人子どもグリーンフサポートステーション 事務局長）
 東郷 智恵美（NPO法人子どもグリーンフサポートステーション）
 三浦 圭一（東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN） 宮城担当）
 田中 勢子（わしん倶楽部 代表/減災コーディネーター）
 谷 祐輔（社会福祉法人石巻市社会福祉協議会 復興支援課 地域福祉コーディネーター）
 黒田 晋（社会福祉法人仙台市社会福祉協議会 若林区事務所 主任/コミュニティソーシャルワーカー）
 今 泰憲（社会福祉法人仙台市社会福祉協議会 若林区事務所 主事）
 柳本 えみ（社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 みやぎボランティア総合センター 主事）
 宮田 真奈美（名取市 震災復興部生活再建支援課 主事（石川県より派遣））
 佐藤 浩樹（宮城県教育庁スポーツ健康課 課長補佐（防災教育担当））
 五嶋 優希（東北学院大学災害ボランティアステーション 学生スタッフ）
 栗原 英文（一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン 代表理事）
 菅原 清香（一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン 福祉・防災学習コーディネーター）
 アドバイザー
 佐藤 利憲（公立大学法人福島県立医科大学 看護学部 家族看護学部門 講師）

第二回 2015/6/10	メンバーの取り組む防災学習プログラムなどを持ち寄り、紹介・体験
第三～六回 2015/7/7, 8/24, 10/1, 10/19	学習者や実践者のメンタルヘルスに配慮した防災学習を推進していくために、どのような工夫や配慮が必要か、実践のアイデアをディスカッション
第七回 2015/12/16	アドバイザー・佐藤利憲氏（福島県立医科大学 看護学部 講師）による講話、冊子の原案を読み合わせ
2016/2/17	冊子の完成披露会 ワーキンググループへの冊子の配布、活用方法についての意見交換

③「福祉」を考えるプログラム

福祉という言葉の意味を考え、身の回りにある福祉の工夫について学び、障がい理解を通じてコミュニケーションの大切さを知る機会をつくりました。

2016/1/29 誰かのためにできること「福祉について」

- 主催・会場：岩沼市立岩沼南小学校
 講師：コミュニティ・4・チルドレン、岩沼市社会福祉協議会
 参加者：5年生2クラス
 内容：「福祉」とは、身の回りの福祉の工夫



2016/2/2 誰かのためにできること「五感を使って福祉を感じてみよう・コミュニケーションの大切さを知ろう」

主催・会場：岩沼市立岩沼南小学校

講師：コミュニティ・4・チルドレン、岩沼市社会福祉協議会

参加者：5年生2クラス

内容：障がい疑似体験、コミュニケーションゲーム

④ボランティア学習プログラム

平時や災害時において自分たちにできるボランティア活動を考え、体験しました。

2015/8/6-7「角田市・柴田町サマーボランティア体験（中高生編）」

主催：角田市社会福祉協議会・柴田町社会福祉協議会

協力：コミュニティ・4・チルドレン、市町内福祉団体等

会場：角田市総合保健福祉センター・柴田町地域福祉センター

参加者：20人（両市町の中高生）

内容：福祉施設でのボランティア体験、災害ボランティア体験



⑤避難所体験プログラム

災害時の避難所生活にイメージをもってもらうため、体育館を使って疑似体験をしました。

2015/8/3「第53回全国スポーツ少年大会」2日目

主催：公益財団法人日本体育協会 日本スポーツ少年団／公益財団法人宮城県体育協会 宮城県スポーツ少年団

会場：大崎市田尻総合体育館

参加者：約390人（全国の小学生～高校生）

内容：避難所づくり、非常食の調理

（C4Cは一協力団体として参画）

2015/11/17 柴田町立槻木中学校「防災学習」

主催・会場：柴田町立槻木中学校

講師：コミュニティ・4・チルドレン、NPO法人まなびのたねネットワーク

参加者：2年生3クラス

内容：避難所生活体験、防災グッズの紹介



⑥防災グッズ作成・体験プログラム

身近な日用品を活用した防災グッズづくりについて学びました。

2015/7/28「夏休みふくし体験 in かくだ（小学生編）」

主催：角田市社会福祉協議会

協力：コミュニティ・4・チルドレン

会場：角田市総合保健福祉センター

参加者：24人（市内の小学4～6年生）

内容：センター探検、非常食体験、防災グッズづくり

（C4Cは協力団体として参画）



2015/7/29「ぼくもわたしもチャレンジ防災！」

主催：七ヶ浜町社会福祉協議会

協力：コミュニティ・4・チルドレン、湊浜区

会場：湊浜地区避難所

参加者：小学生13人、大人9人

内容：防災クイズ、非常用持ち出し袋の中身を考えるゲーム、防災グッズづくり

2015/11/21「子育てほっとサロン」

主催：気仙沼市家庭教育推進協議会

講師：コミュニティ・4・チルドレン

会場：市民健康管理センターすこやか

参加者：未就学児の親子10組

内容：防災グッズづくり、非常食などの紹介

⑦災害の経験を次世代につなぐプログラム

東日本大震災や9.11 関東・東北豪雨の経験を教訓として次世代につないでいくための取り組みを行いました。

2015/6/19「わたしの防災」

主催：石巻市山下地区サロン「かえで会」

協力：コミュニティ・4・チルドレン、石巻市社会福祉協議会

会場：山下地区公会堂

参加者：サロン参加者30人

内容：震災当時の避難行動などの振り返りと共有



2015/9/22～23「高倉まごころ届け隊」

主催：大崎市社会福祉協議会災害ボランティアセンター

協力：コミュニティ・4・チルドレン、東北学院大学災害ボランティアステーション

活動地域：大崎市古川高倉矢目地区

参加者：大崎市立高倉小学校生徒によるボランティア 延べ17人

内容：9.11 関東・東北豪雨により被災された世帯への訪問活動、区長による被災地域の案内

2015/3/12 仙台防災未来フォーラム「市民の防災枠組～マチノワを創るために」

主催：仙台市、NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター

会場：仙台国際センター

参加者：50人

内容：パネルディスカッション、震災当時を振り返るワークショップなど

(C4Cはパネルディスカッションへの登壇・防災ワークショップの進行を担当)

⑧福祉・防災学習担い手育成プログラム

社会福祉協議会職員や地域住民等を対象とした研修において、講義・ワーク・事例提供を行いました。

2015/7/2、2016/1/27「福祉教育学習会」

主催：宮城県社会福祉協議会

協力：コミュニティ・４・チルドレン、宮城県障害者福祉センター

会場：エスポールみやぎ

参加者：各30人（県内社協職員、福祉教育サポーターなど）

内容：夏休み福祉体験や障がい疑似体験をテーマにした事例提供・情報交換など

2015/7/13「第一回育メン・育ジイ講座」

主催：柴田町社会福祉協議会

講師：コミュニティ・４・チルドレン（菅原）

会場：柴田町地域福祉センター

参加者：15人（町内の男性、食生活改善推進員）

内容：防災食育ゲームの体験

2016/5/20「職員研修」

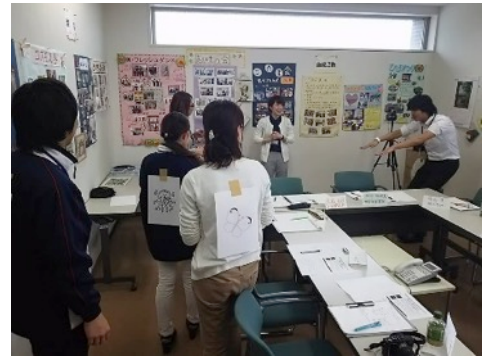
主催：大崎市社会福祉協議会古川支所

講師：コミュニティ・４・チルドレン

会場：大崎市保健福祉プラザ

参加者：8人（大崎市社会福祉協議会古川支所・本所職員）

内容：C4Cみやぎの取り組む福祉・防災学習について事例提供



⑨メンタルヘルス学習プログラム

中学生・高校生を対象に、「こころの健康について学ぶワークブック」を作成しました。

主体：みやぎこころのデザイン教育実行委員会（C4C菅原が委員として参画）

委員会出席：2015/7/1、2015/10/28、2015/12/9、2015/12/17、2016/3/9、2015/4/13

実践サポート：2015/7/15 仙台市立高砂中学校

2、普及啓発のための情報発信

宮城における福祉・防災学習の取り組み状況を発信しながら、普及啓発をはかる機会として、下記の企画や研修会において事例報告や講師をつとめました。

2015/8/4 全国社会福祉協議会主催「全国福祉教育推進セミナー」分科会にて実践事例報告

2015/8/17 京都府京田辺市社会福祉協議会「福祉教育研修会」にて講師対応

2015/8/28 北海道新ひだか町社会福祉協議会主催「災害時の“食”から福祉と防災について考える」
において講師対応

2015/10/16 岐阜県美濃加茂市立山手小学校「防災講演」（4～6年生対象）において講師対応

2015/10/17 岐阜県美濃加茂市立山手小学校「PTA教育講演会」（保護者対象）、「教職員研修」
（教職員対象）において講師対応

- 2015/11/24 北海道名寄市曙町内会「食事会および研修会」において講師対応、名寄市社会福祉協議会「子育てまちづくり懇談会」において実践事例報告
- 2015/11/25 北海道名寄市社会福祉協議会「高齢者食生活改善事業 食の講演」において実践事例報告
- 2015/12/11 福島県社会福祉協議会「ボランティアコーディネータースキルアップ研修」において講師対応
- 2016/2/5 北海道新ひだか町社会福祉協議会「職員研修」において講師対応
- 2016/2/6 北海道新ひだか町社会福祉協議会「福祉教育研修会」において講師対応

3、会議への出席、研修・フォーラム等への参加

県内外で開催された各種会議・研修等に出席・参加し、福祉・防災学習にかかわる情報収集・提供、ネットワーク構築に取り組みました。

- 2015/6/3 第二回ジョイント5 防災・安全活動会議に出席（七ヶ浜町）
- 2015/6/16 岩沼市社会福祉協議会主催「福祉教育実践研究会」に参加
- 2015/7/22 「市長とカフェトーク」に出席（仙台市）
- 2015/8/18 仙南地区社協連絡会担当者会議に出席（柴田町）
- 2015/8/29 NPO法人ファシリテーター・フェローズ主催「第44回体験学習ファシリテーター養成講座」に参加（北海道札幌市）
- 2015/11/13 NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター主催「市民協働と防災の集い」に参加（仙台市）
- 2015/12/9 仙台市立七郷小学校「防災安全科 中間公開研究会」に参加
- 2016/1/15 宮城県教育委員会主催「地域防災フォーラム」に参加（多賀城市）
- 2016/2/20 防災教育チャレンジプラン「2015年度活動報告会」に参加（東京都）
- 2016/3/18 全国社会福祉協議会主催「福祉教育7つの実践～社会的包摂にむけた福祉教育プログラムモデル事業報告会～」に参加（東京都）
- 2016/3/29 宮城県社会福祉協議会・宮城県障害者福祉センター・仙台市社会福祉協議会との福祉教育実践・推進に関する情報交換会に出席（仙台市）
- 2016/4/13 宮城県社会福祉協議会・宮城県障害者福祉センター・仙台市社会福祉協議会との福祉教育実践・推進に関する情報交換会に出席（仙台市）
- 2016/4/13 みやぎ広域支援団体担当者連携会議に出席（仙台市）
- 2016/5/12 みやぎ広域支援団体担当者連携会議に出席（仙台市）
- 2016/5/13 宮城県サポートセンター支援事務所連携団体連絡会議に出席（仙台市）
- 2016/5/13 宮城県社会福祉協議会「第一回震災復興定例支援会議」に出席（仙台市）
- 2016/5/27 teamSENDAI 主催「クロスロード研修会」に参加（仙台市）

4、事業視察

県内外で実施された福祉・防災学習にかかわる事業等において、視察を行いました。

2015/6/23 石巻市立中津山第二小学校「障がい疑似体験」（講師：石巻市社会福祉協議会）

2015/6/30 新潟県長岡市立西中学校「避難訓練」（講師：中越防災安全推進機構）

2015/6/30 新潟県新潟市立南浜中学校 中学校の防災教育推進のための会議

2015/7/23 柴田町立西住小学校「教職員研修」（講師：柴田町社会福祉協議会）

2015/11/21 NPO法人浜わらす「釣りっこ」（気仙沼市）

2015/12/14 角田市社会福祉協議会「役職員研修」

2016/3/9 仙台市立蒲町中学校「防災体験」

5、情報交換・相談対応・ヒアリング

下記団体・機関・地域等を訪問・面談し、福祉・防災学習の推進にかかわる情報交換や相談対応・ヒアリングに取り組みました。（順不同）

県内：宮城県社会福祉協議会、仙台市社会福祉協議会若林区事務所、登米市社会福祉協議会、大崎市社会福祉協議会（本所・古川支所）、女川町社会福祉協議会、石巻市社会福祉協議会、美里町社会福祉協議会、利府町社会福祉協議会、柴田町社会福祉協議会、角田市社会福祉協議会、名取市社会福祉協議会、みやぎ生活協同組合、NPO法人TEDIC、NPO法人仙台市精神保健福祉団体連絡協議会、仙台市立北中山小学校、大崎市古川高倉矢目地区

県外：公益社団法人中越防災安全推進機構（新潟県長岡市）、三条市グリーンスポーツセンター（新潟県三条市）、NPO法人CHILL（東京都）

【成果と課題】

2015年度は助成金を活用した自主プロジェクトの実施も2年目に入り、設定したテーマに対してより多様な角度から、関係機関との連携を密に、丁寧なプロセスを踏まえ取り組むことができました。

また、自主プロジェクトやモデル事業の実施を通じて、福祉・防災学習の目指す目的・目標と、それに合うプログラムを、地域性や学習者をみながら考え・創り上げていくプロセスの重要性を再確認した一年でした。

- 「災害時に要援護者を助ける災害食」普及・啓発プロジェクト（真如苑助成事業）では、昨年度の3市町から県外も含め8市町に広げて事業を実施。自主プロジェクトでイベントを立ち上げるだけではなく、既存の福祉教育事業や防災訓練とコラボレーションをしたり、施設の活動の一環として企画していただいたりしたことで、学習者の関心を高めるための環境づくりから丁寧に取り組むことができました。
- 「学びと暮らしへの安心感を高める防災学習」推進プロジェクト（地福寺助成事業）では、合計7回のワーキンググループを開催。メンバーが実践している学習プログラムなどを体験し、実践上の課題を共有しながら、その解決に向けた工夫やアイデアを語り合い、冊子「実践者の声から～防災学習のお悩み」を500部作成しました。2016年度に計画している勉強会にて本格的な活用を始めます。

- 福祉・防災学習カフェは、「災害時に要援護者を助ける災害食」普及・啓発プロジェクトの一環として1回開催。宮城で地域防災や災害支援に取り組む学生と立命館大学大阪いばらきキャンパス（大阪府）に出向き、災害支援などの活動に取り組む関西の学生や社会福祉協議会職員とともに、学生が災害や防災という切り口で、地域でできることを語り合いました。
- モデル事業の実施においては、自主事業を含む9のプログラムの実践に取り組みました。新しく取り組むプログラムは特に参加者の様子を見ながら取り組むようにしていますが、何度も実践しているプログラムであっても、地域や学習者や季節などが違えばプログラムの前後や最中でかける言葉も変わります。学びの場づくりにおいて大切にすべきポイントをおさえながら、伝えたいことを伝えるための工夫を重ねることを忘れないよう心掛けが必要であると感じました。

2. 視察・研修・ワークショップなど

2-1. スタディ・ツアー等

(1) 東北タイ農村ホームステイ

2015年9月3～9日、タイ・コンケン県ノンメック村で東北タイ農村ホームステイを実施しました。日本人大学生2人、NPO法人み・らいずの職員1人、会社員1人の合計4人に、フィリピン JPCOM-CARES のスタッフ1人の5人が参加しました。今回は、ホームステイを通じて村人の日常生活を学ぶだけでなく、伝統文化を継承する活動（草木染と伝統舞踊）も行い、公共林に子どもたちと一緒に入り、草木染の材料を採取することから始め、自分たちで模様を決め、布を染めました。また子どもたちから伝統舞踊を学び、最終日には村人たちの前で披露しました。送別会には村長夫妻を始め、牛銀行委員会のメンバーなど多くの村人も参加してくれました。



(2) タイ・ワークキャンプ

2016年2月24～3月1日、NTT労働組合関西総支部が国際ボランティア活動として、『タイ東北地方農村ワークキャンプ』を実施し、その調整をC4Cが行いました。総勢12名が、KK財団の活動地域であるノンメック村でホームステイし、村人たちと協働で、スポーツコートの拡張作業および牛舎の修理をしました。また労組から牛銀行へ雌牛一頭分の寄付もいただきました。スポーツコートの作業には、多くの村人が時間を作って参加し、日本人と一緒にワークしました。そしてスポーツコート完成後、村の人たちと運動会を通じて交流しました。以前からNTT労働組合関西総支部は、調査団を派遣し、児童労働撲滅のために何ができるかを調査してきました。2015年2月にはスタディツアーを開催し、14人のメンバーを派遣し、各々が現地で何が必要かを考え、ノンメック村の村長や長老たちと話し合いを重ねた結果、今回のスポーツコートの建設拡張が実現しました。村人たちも実際、汗を流して働く日本人のメンバーに感銘を受け、それまで遠巻きに見て



いた人々も一緒になって汗を流してくれました。協働することによって、日本人だけでなく、タイの村人の心にも大きな変化があったようです。スポーツコートや牛銀行を自分のものとして感じ始めた村人も多く、次なる活動の契機になりました。

2-2. 国内 IDoCafé（あい・どう・かふえ）事業

2015年度は、諸事情により開催しませんでした。位置づけや目的を再検討する必要があります。

2-3. 招聘・視察・研修事業

(1) フィリピン人スタッフ研修 2015年9月に行ったタイ・スタディツアーに合わせて、フィリピン JPCoM-CARES からスタッフを一人招聘し、タイで草木染の研修を行いました。フィリピンでは、利用者のリハビリや経済的自立を目指して、ビーズネックレスづくり、紐あみ、鍋敷きづくりなどに挑戦しています。草木染もまた可能性のある技術であるため、草木染をタイの農村で採集から始めすべての工程を体験しました。フィリピンに帰国後、スタッフはさっそく草木染を試してみると、評判も上々だったようです。

(2) 日本人インターン 2016年4月29日から5月26日までの約1か月間、保育士志望の学生がフィリピン・JPCoM-CARES においてインターンとして研修しました。

3. パートナーシップ推進事業

3-1. 調査事業

(1) 宮城県における地域一体で取り組む福祉・防災学習推進事業のための調査

調査実施者：菅原清香会員

宮城県および周辺県において福祉・防災学習推進事業の実施主体を訪問し、ヒアリング調査・研究、事業実施に関する意見交換等を行いました。特に2015年度は「学びと暮らしへの安心感を育む防災学習」推進プロジェクトにおいてワーキンググループを立ち上げ、学習者も実践者も安心して防災学習に取り組み、この宮城で安心して暮らしていくことのできるよう、メンタルヘルスケアの視点を取り入れた防災学習プログラムの企画・実施方法を考える検討会を計7回開催しました。研究成果を冊子「実践者の声から～防災学習のお悩み」にまとめて500部発行しました。また、県内で開催された各種会議・研修に出席し、情報交換・ネットワーク構築に取り組みました。

4. 情報提供事業

4-1. ホームページ、ブログ、facebook による情報発信

2015年6月～2016年5月末の間に、1,356人の方に訪問いただき、4,428のレビューがありました。団体名からの検索が一番多く、「C4Cみやぎ」や「スタディ・ツアー」といったキーワードでの検索も上位でした。「団体概要」、「タイ・スタディツアー」、「フィリピン・スタディツアー」のページ表示回数が上位を占めていました。

今年度もホームページの内容充実、ブログとfacebookの更新頻度向上と相互リンクを行い、情報発信に努めます。

★ホームページ：<http://www.community4children.com>

★ブログ：<http://ameblo.jp/community4children/>

4-2. イベント参加

◆ワン・ワールド・フェスティバル for Youth～高校生のための国際交流・国際協力 EXPO 2015年12月26日（土）10時～17時 於 大阪国際交流センター

青少年を対象とする「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」に活動紹介ブースを出して参加しました。これまでは一般対象とする「ワン・ワールド・フェスティバル」に参加していましたが、参加費の上昇、会員勧誘等につながらないことなどから、主に高校生を対象とした「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」に参加することにしました。会員勧誘等には結び付きませんでした。小規模なイベントであるため、若い人たちと少しゆっくり語り合うことができた点で意義はあったと考えます。

5. 組織運営

◆2015年度会員について

会員数比較

	2013年度（人）	2014年度（人）	2015年度（人） （2016年5月31日現在）
正会員（個人）	16	14	21
正会員（団体）	0	1	0
賛助会員（個人）	9	8	13
賛助会員（団体）	2	0	2
使途指定寄付（タイ牛銀行）	0	2	14
使途指定寄付（タイ・奨学金）	0	1	0
使途指定寄付（フィリピン）	1	1	0
一般寄付	8	11	12

正会員総数が2014年度より7人増加しました。2014年度正会員で2015年度に会員にならなかった人が2名おられましたが、賛助会員や一般寄付者として組織に関わってくださっています。タイの牛銀行プロジェクトへの緊急キャンペーンを行ったため、使途指定寄付が増加しました。今後も、新しい会員を増やすとともに、これまでの支援者とも交流を密にし、会員継続してもらうようフォローする必要があります。